

# 重層的支援体制整備事業へ ～「オール木更津」で目指す地域共生社会の実現～

近年、地域社会が抱える課題は、社会的孤立をはじめ、介護と育児のダブルケア、8050問題（※1）など複雑かつ複合化しています。これまで制度として整備されてきた高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者など対象者ごとの支援体制では、世帯が抱える様々な課題に対応することが困難になっています。

こうした中、国は令和2年に社会福祉法を改正し、これらの課題に対応する包括的な支援体制を構築するため、令和3年4月から「重層的支援体制整備事業（以下、重層事業）」をスタートしました。

今回は、千葉県内で重層事業を実施している木更津市において、中核的な役割を担っている木更津市社会福祉協議会（以下、市社協）の取り組みを中心に取材しました。

## 木更津市と市社協が一体的に取り組む計画

木更津市では、これまでの対象者ごと・縦割りの制度では対応困難な事例が増えてきていた状況を踏まえ、令和4年度から8年度までの計画期間である「第4期木更津市地域福祉計画（行政の計画）」において、重層事業の実施を重要な施策として位置づけて策定しました。

また、市社協も一体となって地域社会の課題解決に取り組むため、同じ計画期間で「第4次木更津市地域福祉活動計画（社協の計画）」を策定しました。

## 令和4年度から本格スタートした重層的支援体制整備事業

同市では、国の動向を踏まえて、計画策定前の令和3年度から重層事業の移行準備事業を実施し、令和4年度より同事業を本格的にスタートしました。

市社協を始めとする市内の社会福祉法人やNPO法人などの様々な支援機関が一体となり、本事業の柱とされている「包括的相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの事業と、それらを支えるための「アウトリーチ（※2）



木更津市福祉部社会福祉課 地域福祉係 主任主事 木堂 泰臣 氏

等を通じた継続的支援」「多機関協働」の2つの事業に取り組んでいます（各事業の概要は右ページ上段の表を参照）。

## 市内全15地区にコミュニティソーシャルワーカーを配置

市社協は、木更津市からの委託により、重層事業のうち「参加支援」「アウトリーチ等を通じた継続的支援」「多機関協働」の3つの事業と、「地域づくりに向けた支援」の一部の事業を実施しています。

これらの事業を進めていく上で重要な役割を担うのが「コミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）」です。市社協では、重層事業が始まるより前の令和元年度から木更津市の委託を受けて市内全15地区にCSWを配置してきました。

現在18名いるCSWは、支援を必要とする人が適切な福祉サービスを受けられるよう、既存の制度やサービス、地域住民の助け合い活動などを組み合わせたり、新しい仕組みづくりのための調整を行うなどの活動に取り組んできた経験があり、重層事業においてもそのノウハウを生かした役割が期待されています。

また、市社協では、相談支援にあたる組織体制を強化す



木更津市社協 トータルサポート推進室 主査 平野 秀樹 氏 室長 北原 睦子 氏

## 重層的支援体制整備事業の概要 (厚生労働省ホームページより)

事業名	事業の概要
包括的 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める</li> <li>● 支援機関のネットワークで対応する</li> <li>● 複雑化・複合化した課題については適切に多機関協働事業につなぐ</li> </ul>
参加支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会とのつながりを作るための支援を行う</li> <li>● 利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる</li> <li>● 本人への定着支援 (状態や希望に沿った支援が実施できているかフォローする) と受け入れ先の支援を行う</li> </ul>
地域づくりに 向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備する</li> <li>● 交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする</li> <li>● 地域のプラットフォーム (共通の基盤) の形成や地域における活動の活性化を図る</li> </ul>
アウトリーチ等 を通じた 継続的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援が届いていない人に支援を届ける</li> <li>● 会議や関係機関とのネットワークの中から潜在的な相談者を見付ける</li> <li>● 本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く</li> </ul>
多機関協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する</li> <li>● 重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす</li> <li>● 支援関係機関の役割分担を図る</li> </ul>

# の取組み



木更津市社協 事務局長 高木 淳佳 氏

るため、新たに「トータルサポート推進室」を設置するとともに、職員の重層事業についての共通認識を図るため、全職員を対象とした研修も実施しています。

## 「オール木更津」による 総合相談体制の構築に向けて

今年7月には、木更津市及び市社協の主催により、総合相談体制の構築に向けた「関係者連絡会」が開催され、市内で包括的相談支援事業を実施する11団体の担当者25人が参加しました。連絡会の開催により、顔の見える関係づくりができたことに加え、それぞれの団体が抱える課題等を共有する機会となりました。そして、これからは重層事業という制度として、「オール木更津」で総合相談に取り組むことが重要であるという意識が高まりました。

木更津市の木堂さんは「既存の体制でも連携して相談に対応してきましたが、重層事業を実施することによって連携を制度化し、構築されたネットワークを持続可能なものにして、更に発展させることができると思われます」と語ります。



木更津市社協 トータルサポート推進室の皆さんを中心に

## 地域の支えあい活動による 気づき・考え・行動できる地域

「重層事業は、地域の皆さんが主体となる交流の場や、生活支援などの地域の支えあい活動があって大きな成果が得られるものです。地域共生社会の実現に明確なゴールはないと考えますが、福祉教育(※3)を推進するときと同じように、気づき・考え・行動できる地域をつくっていくことが重要だと考えています」と平野さん。

北原さんも「重層事業には地域の皆さんの協力や連携が欠かせません。市内の民生委員・児童委員や地区社協の皆さんなどに制度の説明をしていますが、これからも周知活動に力を入れていきます」と意欲的です。

## 木更津市の 地域共生社会の実現に向けて

「重層事業の実施を手がかりとして、地域のあらゆる主体が手を携えて、地域の課題を自分たちのこととして受け止め、解決のために何が必要で、何ができるのか。そのためには、ソーシャルアクション(※4)を起こすことが重要です」と熱く語る高木さん。

重層事業への取り組みはまだ始まったばかりですが、その言葉どおり、地域共生社会の実現に向けて木更津市が動き始めています。

### 【用語の解説】

(※1)8050問題:80代の親が、ひきこもる50代の子どもの生活を支えるという問題

(※2)アウトリーチ:援助が必要である状態であっても、自発的に求めない(求めることができない)人々に対して、訪問等の働きかけにより支援の実現をめざすこと

(※3)福祉教育:子どもたちの健全な育成を進めるとともに、地域住民の学びを通じて地域福祉の推進を図る、地域に暮らす全世代を対象とした取組み

(※4)ソーシャルアクション:社会問題の解決のために、制度の創設などを求める活動